

学校経営推進費 評価報告書（2年め）

1. 事業計画の概要

学校名	大阪府立枚方なぎさ高等学校 全日制の課程
取り組む課題	生徒の学力の充実
評価指標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育自己診断における生徒の授業満足度の向上 ・授業アンケートにおける「授業に対する生徒の意識」の向上 ・授業アンケートの教員平均値の上昇 ・外部機関の客観的学力診断テストにおける学力の向上
計画名	「なぎさスマイルプロジェクト～授業に笑顔を～」

2. 事業目標及び本年度の取組み

学校経営計画の 中期的目標	<p>1 思考力・判断力・表現力など確かな学力を育成するため、教員の授業力向上を図る。</p> <p>(1) 授業力向上委員会を設置して、学校全体でめざす授業を明確化し、「主体的で対話的な深い学び」を実践するため、アクティブ・ラーニングやユニバーサルデザインの授業に関する情報を共有し活用する。</p> <p>(2) 授業アンケートを有効に活用するとともに、研究授業や教員同士の授業観察等の活性化を図る。</p> <p>※生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」（平成29年度 64.6%）を毎年3%引き上げて、2020年度には75%以上にする。</p>
事業目標	<p>※現状と課題：</p> <p>本校は、授業で十分に生徒の力を伸ばし切れていない。そこで、生徒の確かな学力を育成するため、全教室に電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターを設置し、以下の取組みを行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 授業力向上委員会を設置し、「笑顔が広がる授業」や「わかりやすく楽しい授業」をめざして、ICT機器を活用した授業の全体計画を策定する。 ② パッケージ研修を通じて、アクティブ・ラーニングや授業のユニバーサルデザイン化に関する理解を深めるとともに、「生徒に付けたい力」「笑顔が広がる授業」「わかりやすく楽しい授業」の共通認識を図る。 ③ モデル授業者がICT機器を活用した研究授業を実践し、教職員全体で研究協議を行う。 ④ 各教科1名がICT機器を活用した研究授業を実践して全体化を図る。 <p>※評価指標：</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」（平成29年度 64.6%）を毎年3%引き上げる。 ② 授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』（平成29年度 3.0）を毎年0.03ポイント引き上げる。

	<p>③ 授業アンケートの教員平均値（平成 29 年度 3.08）を毎年 0.02 ポイント引き上げる。</p> <p>④ 平成 30 年 4 月の値を基準に外部機関の客観的学力診断テストにおける 3 年生の国数英の偏差値平均を毎年 1.0 ポイント引き上げる（3 年後までに 3.0 ポイント引き上げる）。</p>
<p>整備した 設備・物品</p>	<p>普通教室（18 室）への電子黒板機能付き超短焦点プロジェクター、壁掛け金具、無線 LAN ユニット、配線工事費</p>
<p>取組みの 主担・実施者</p>	<p>授業力向上委員会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 首席及びカリキュラムマネジメント研修受講者が組織を動かす ・ 構成メンバー：教頭、首席、カリマネリーダー、各教科代表者
<p>本年度の 取組内容</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教室の電子黒板機能付超短焦点プロジェクターの活用頻度が上がり、多くの教員が ICT 機器を活用した「楽しくてわかりやすい授業」を実践するようになった。 ・ 教室の前面には掲示物を貼らないなど、全教室で教室環境のユニバーサルデザイン化を図った。 ・ 授業力向上委員会を中心にして、パッケージ研修を 2 回実施し、1 回めで「めざす授業の全体化」を図り、2 回めでモデル授業者による ICT 機器を活用した研究授業を行った。 ・ 授業力向上委員会を中心として、枚方市立渚西中学校との授業交流や各教科別の研究協議を実施した。 ・ 公開授業月間などを通して、教員相互の授業観察が大幅に増加した。
<p>成果の検証方法 と評価指標</p>	<p>① 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」を 71%にする。</p> <p>② 授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』を 3.06 にする。</p> <p>③ 授業アンケートの教員平均値を 3.12 にする。</p> <p>④ 外部機関の客観的学力診断テストにおける 3 年生の国数英の偏差値を平成 30 年 4 月比 2.0 ポイント向上させる。</p>
<p>自己評価</p>	<p>授業力向上委員会を通じて、パッケージ研修や枚方市立渚西中学校との授業交流など、教員の授業力向上のために様々な試みを実践した。教室環境のユニバーサルデザイン化を行い、授業における「なぎさスタンダード」など、めざす授業の全体化が進んだ。パッケージ研修のモデル授業者が ICT 機器を活用した研究授業を実践し、教職員全体で研究協議を行った。</p> <p>① 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」（平成 30 年度 67.2%）は 63.3%で、3.9%減少し、2 年めの目標の 71%には届かなかった。……………（△）</p> <p>② 授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』（平成 30 年度 3.125）は 3.16 で、0.035 上昇した。……………（◎）</p> <p>③ 授業アンケートの教員平均値（平成 30 年度 3.21）は 3.27 で、0.06 上昇した。（◎）</p> <p>④ 外部機関の客観的学力診断テストにおける 3 年生の国数英の偏差値は平成 30 年 4 月比 1.6 ポイント上昇（前年度比 0.1 ポイントの上昇）だった……………（△）</p>

次年度に向けて

- ・ 教室の電子黒板機能付き超短焦点プロジェクターを有効活用するとともに、教室環境のユニバーサルデザイン化と授業における「なぎさスタンダード」を実践していく。
- ・ 次年度もパッケージ研修や渚西中学校との授業交流を通じて、教員の授業力向上を図る。
- ・ ICT 機器等をさらに活用することで、目標値の達成をめざす。
- ・ 生徒向け学校教育自己診断「楽しくて、わかりやすい授業が多い」（令和元年度 63.3%）を5%上昇させ、68%以上とする。
- ・ 授業アンケート『興味・関心を持つことができた』『知識・技能が身に付いた』（令和元年度 3.16）を0.03ポイント上昇させ、3.19とする。
- ・ 授業アンケートの教員平均値（令和元年度 3.27）を0.03ポイント上昇させ、3.30以上とする。
- ・ 外部機関の客観的学力診断テストにおける3年生の国数英の偏差値を平成30年4月比3.0ポイント向上させる。